主な研究開発の例④（次世代バックボーンに関する研究開発）

MIC

インターネットの通信量（トラヒック）の爆発的な急増等に対応できる分散型・高信頼の次世代バックボーン（基幹中継網）の実現・強化に必要な①分散型バックボーン構築技術、②複数事業者間の品質保証技術、③異常トラヒックの検出・制御技術に関する研究開発を実施。

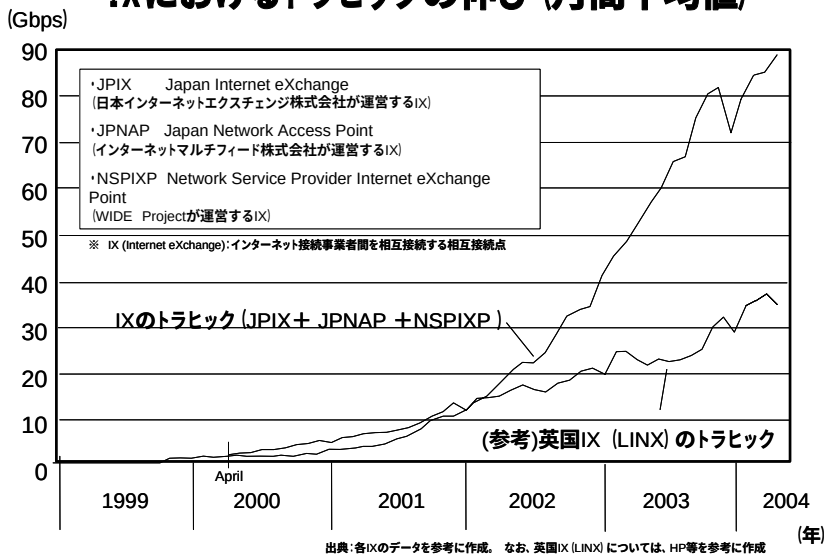
平成17年度予算予定額：20.0億円（新規）

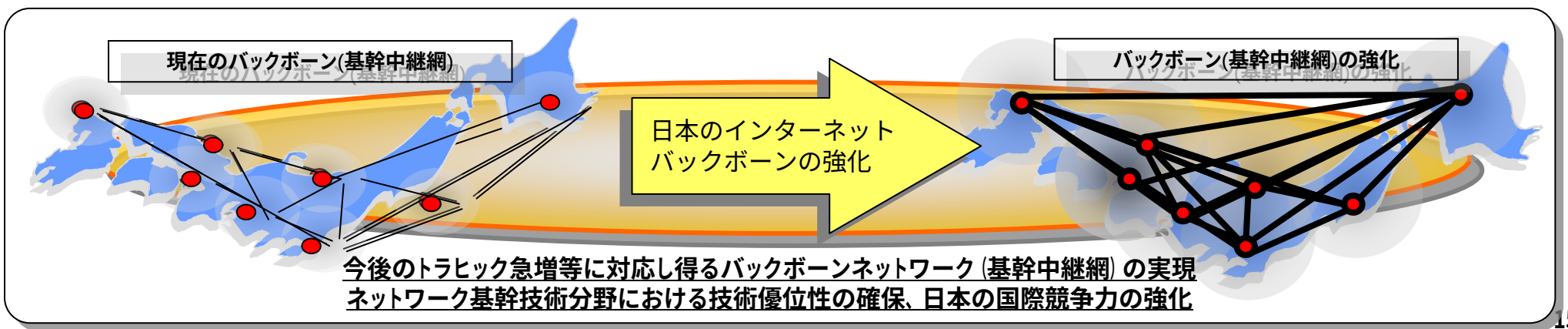
我が国のIXにおけるトラヒックの最大値（単位：G）

	２００１年末	２００２年末	２００３年末
NSPIXP（東京＋大阪）	５．５	１３．０	１８．６
JPIX（東京）	６．５	２０．０	３２．０
JPNAP（東京＋大阪）	２．０	１０．６	４０．０
合　計	１４	４３．６	９０．６

約3倍　　約2倍

IXにおけるトラヒックの伸び（月間平均値）



出典：各IXのデータを参考に作成。　なお、英国IX（LINX）については、HP等を参考に作成

※　LINX：The London Internet Exchange
※　1日のピークトラヒックの一ヶ月の平均値